

取扱説明書

ファンコイルユニット

CLIMATOR

SF・SFM・SFR・SFM
SC・SCR・SCRM
SL・SLR・ST・STR
MH・MV

CLIPAK

CP・CPM

FAN CONVECTOR

FW・CW・LW

UNIT HEATER

PS・PW・HS・HW



このたびは弊社製品をご採用いただき、まことにありがとうございます。

機器の性能を長期間維持し、安全にご使用いただけるように、この取扱説明書をご活用願います。

また、管理される方がいつでも見られるように保管し、運転や保守・点検の際に必ずご覧ください。

お願い事項



この取扱説明書は製品を安全にご使用いただくうえで重要な内容を記載しておりますので、ご使用の際にはよくお読みください。また、安全に関して特に注意すべき点は「危険」「警告」「注意」に区分し、表記しておりますので遵守願います。

目次




1. 安全にご使用いただくために	1
2. 各部の名称と機能	3
3. 運転	10
4. 保守点検	13
5. 異常時の確認	17
6. 標準メンテナンスサイクル	18
7. 製品の保証	18










1 | 安全にご使用いただくために

● 危害・損害の程度を表す記号の区分

 警告	取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度。
 注意	取扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度。但し、この場合でも状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。

● 危害・損害の発生事象・結果事象を表す記号の区分

	△記号は、警告・注意を促す内容があることを告げるものです。 図の中に具体的な注意内容(左図の場合は回転体注意)が描かれています。
	⊘記号は、禁止の行為であることを告げるものです。 図の中に具体的な指示内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。
	●記号は、行為を強制したり、指示したり内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容(左図の場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

 警告	
 <p>運転中にユニット内部に触れない ケーシングの開口部（前板・底板・天井パネル・点検蓋）を外したままファンを運転しないでください。 また、運転中は内部に高速回転物や高温物がありますので、絶対に触れないでください。大ケガを負うおそれがあります。</p>	 <p>パネル・エアフィルタは必ず取り付ける 本製品を運転される際は、パネル及びエアフィルタを有するユニットについては必ず取り付けて運転してください。取り付けずに運転すると、故障・火災の原因になります。</p>
 <p>改造をしない 改造や不適切な修理は故障・感電・火災の原因になります。修理が必要な場合は、専門の工事業者や弊社指定のサービス会社にご相談ください。</p>	 <p>異常を確認したら、すぐに運転を停止する 運転音や振動に異常を確認した場合は、すぐに運転を停止してください。異常のまま運転を継続すると、故障・感電・火災の原因になります。 また、異常への対処は専門の工事業者や弊社指定のサービス会社にご相談ください。</p>
 <p>電源プラグ・電源コードの確認を行う 電源プラグはホコリが付着していないか確認し、がたつきのないように刃の根元まで確実に差し込みください。ホコリが付着したり、接続が不完全な場合は、感電・火災の原因になります。(電源プラグ付機種)</p>	 <p>電源コードはタコ足配線をしない 電源コードは途中で接続したり、延長コードの使用、ほかの電気機器とのタコ足配線はしないでください。感電・発熱・火災の原因になります。また、重いものを乗せたり、加熱したり、引っ張ったりすると破損の原因になります。(電源プラグ付機種)</p>
 <p>清掃時は電源を必ず切る 点検や清掃時は必ず運転を停止し電源をお切りください。電源プラグ付の機種は、電源プラグを抜いてください。内部でファンが高速回転していますので、ケガをするおそれがあります。</p>	 <p>蒸気管には手を触れない 蒸気管はその表面及び周囲が高温になっており、触れると火傷をするおそれがあります。</p>

警告



水質基準に適合した冷水・温水を使用する

(一社)日本冷凍空調工業会ガイドライン:JRA-GL-02「冷凍空調機器用水質ガイドライン」の「冷水」及び「温水」に準じた水質の水を使用してください。
水質の管理が適切でない場合、コイル主管などに腐食が生じ水漏れの原因になります。

注意



冷やし過ぎない

長時間冷風を体に直接当てたり、冷やし過ぎないようにしてください。体調悪化・健康障害の原因になります。



ユニットの上には乗らない

ユニット上部はすべりやすく、落下などによるケガのおそれがあります。また、機器の破損の原因になります。



濡れた手でスイッチを操作しない

濡れた手で電源プラグやスイッチ類の操作をすると、感電するおそれがあります。



ユニットを水で濡らさない

本体を水洗いしないでください。
また、水が掛からないように注意してください。水に濡れると故障・漏電・感電の原因になります。
特に電気部品は注意してください。



点検や清掃は厚手の長手袋を着用する

機器の点検や清掃を行うときは必ず厚手の長手袋を着用してください。特にコイルのフィン清掃時は注意してください。



断熱材にキズなどをつけない

点検時・清掃時には断熱材にキズをつけないでください。
運転中の剥離・飛散の原因になります。



室内の換気を行う

燃焼器具と一緒に運転するときは、こまめに換気してください。換気が不十分な場合は、酸素不足の原因になります。



吹出口付近に物を置かない

冷・温風が室内の隅々までゆきわたるよう、吹出口や吸込口付近に気流の障害となる物を置かないでください。また、動植物には直接風が当たらないようにしてください。動植物に悪影響を及ぼすことがあります。



保管中や休止中は電源を切る

長期間ご使用にならない場合は、電源を切り、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。ホコリが溜まると発熱・火災の原因になります。



特殊環境下で使用はしない

機械油・食油・塩分・湿気・粉塵の多い所、温泉地帯・硫化ガス・揮発性ガスなどが充満している所、電圧変動の多い所に使用すると故障の原因になります。上記の環境で使用する製品は特殊品となります。



ドレンの排水状態を確認する

ドレンパンのゴミを溜まらないように取り除いてください。ドレン排水口が詰まり、漏水するおそれがあります。



コイルの凍結防止策を実施する

冬季、コイル内の水が凍結するおそれがある地域では、凍結防止策を実施してください。



定期的に点検・補修を行う

機器の機能を維持するために定期的な点検・補修を実施してください。



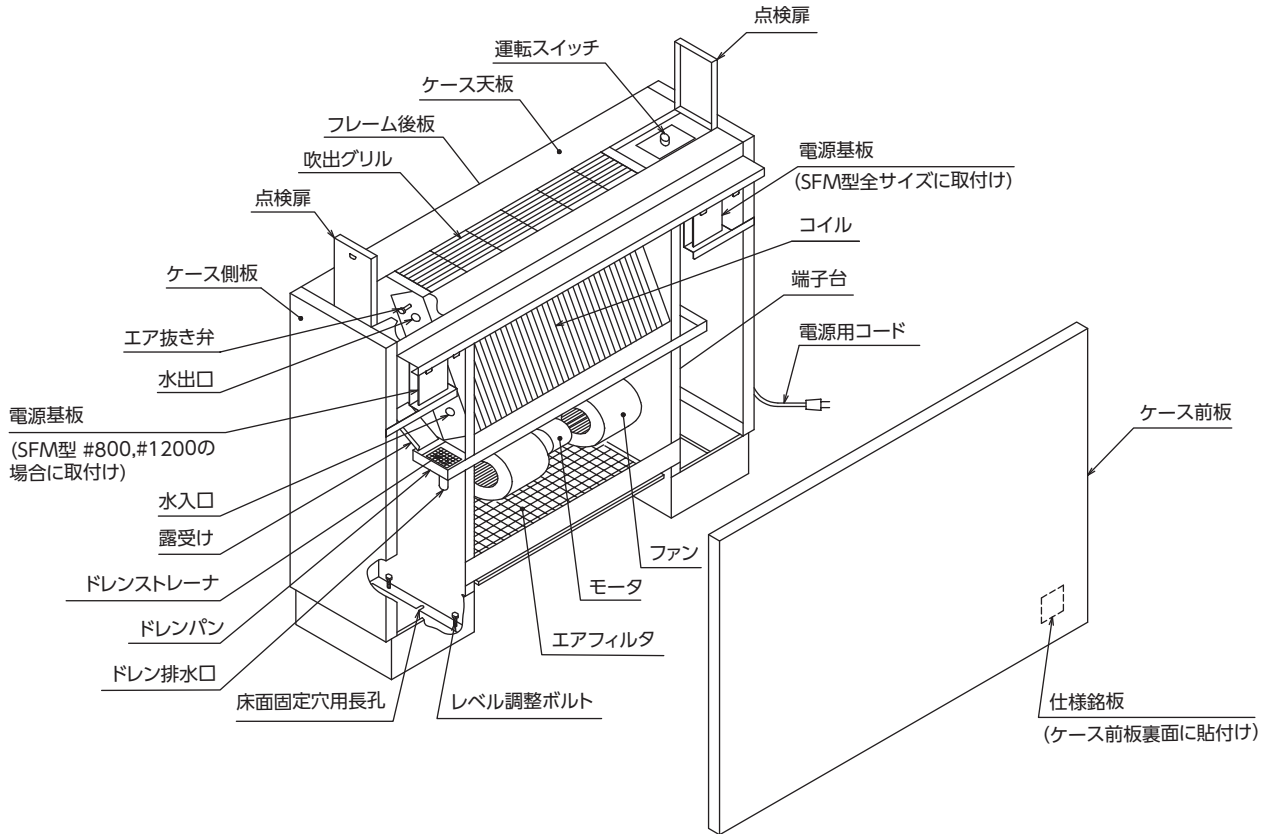
電源基板に触れない

電源基板に触れると、故障・感電の原因になります。

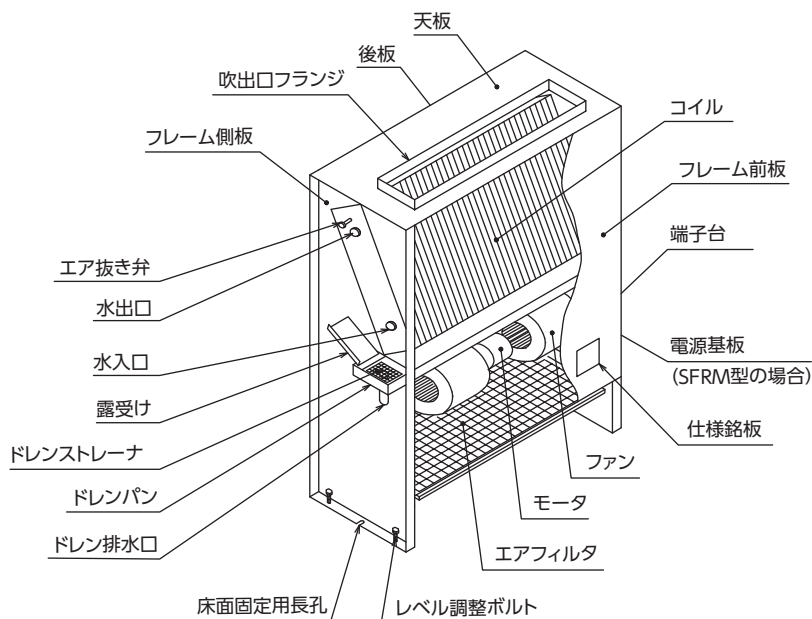
2 | 各部の名称と機能

1 CLIMATOR (クライメータ)

床置露出形 (SF・SFM型)

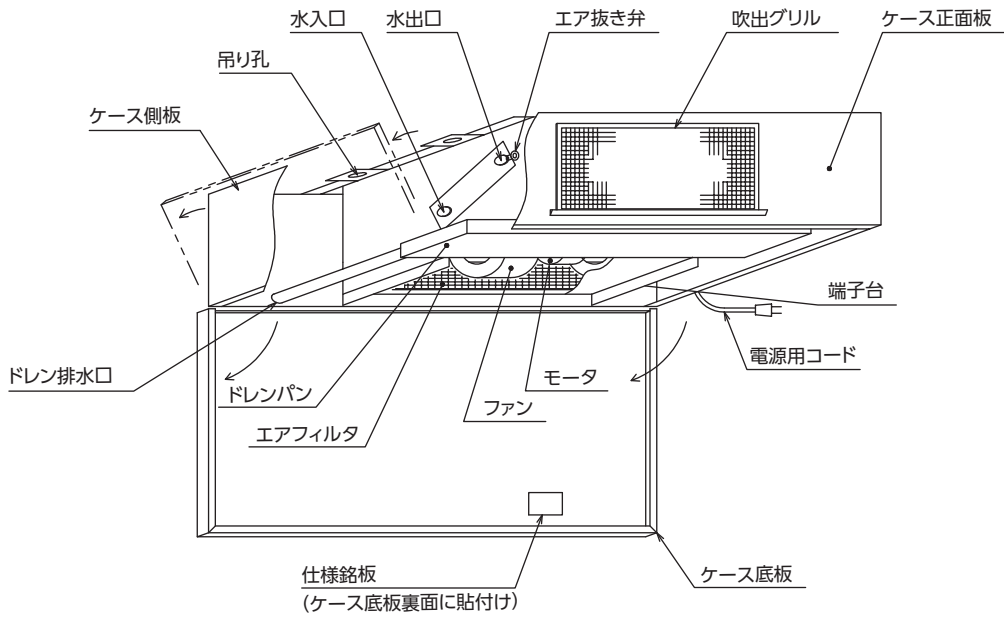


床置隠ぺい形 (SFR・SFRM型)

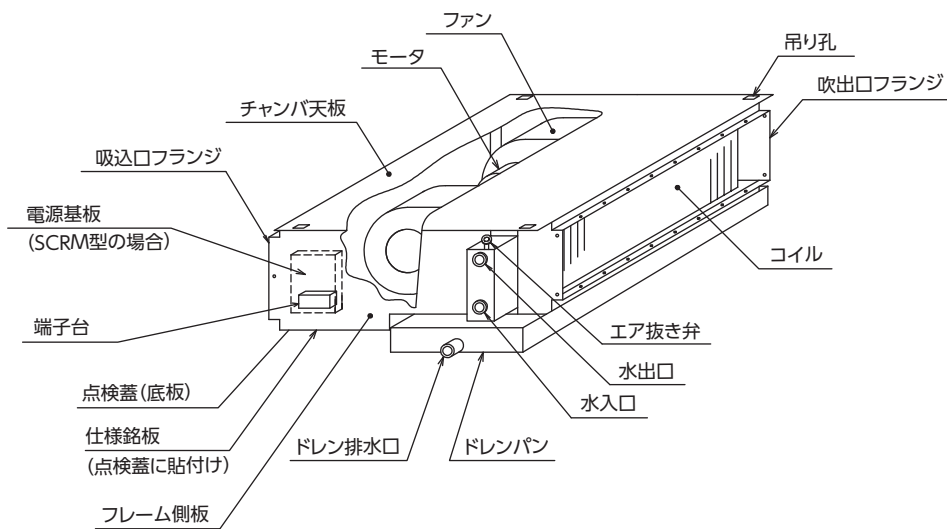


記載内容は標準仕様が対象のため、特殊仕様は製品の細部が若干異なります。

天井吊り露出形 (SC型)

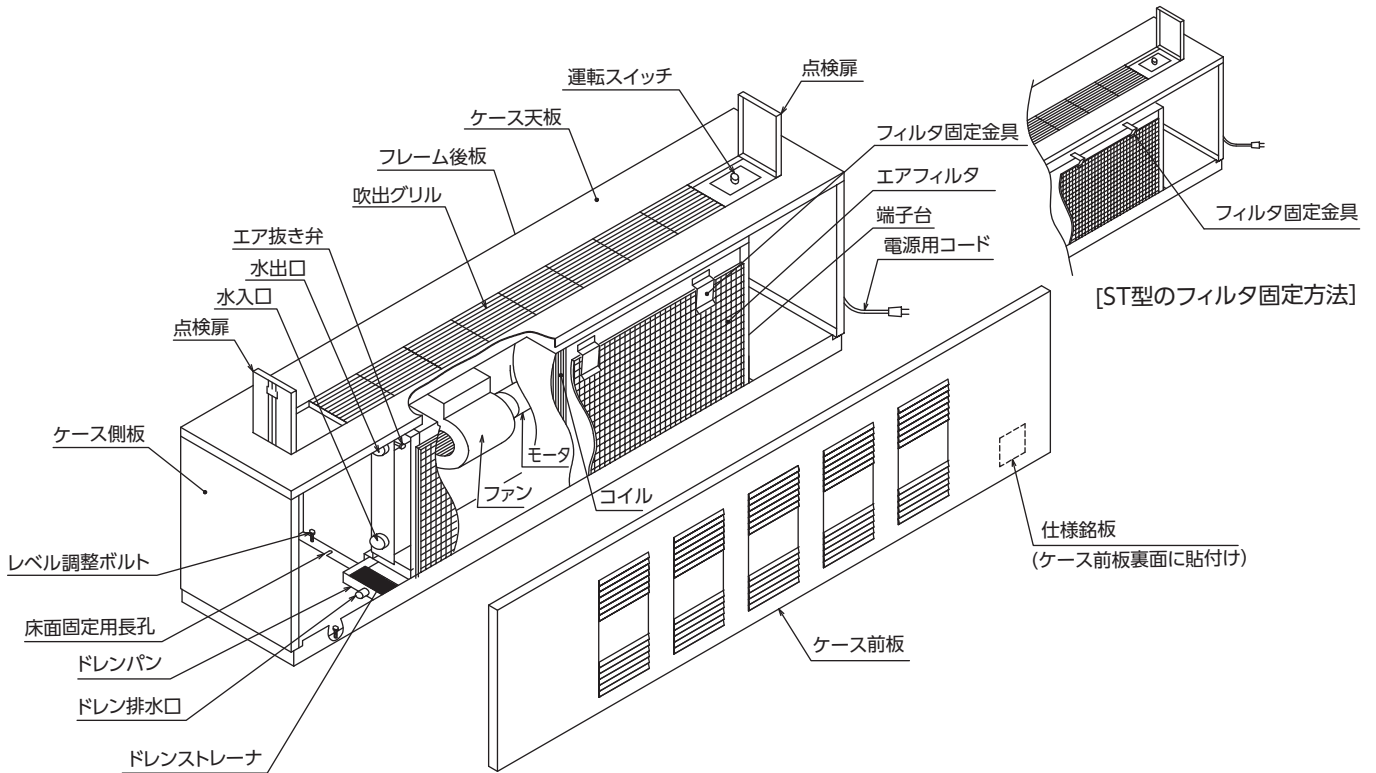


天井吊り隠ぺい形 (SCR・SCRM型)

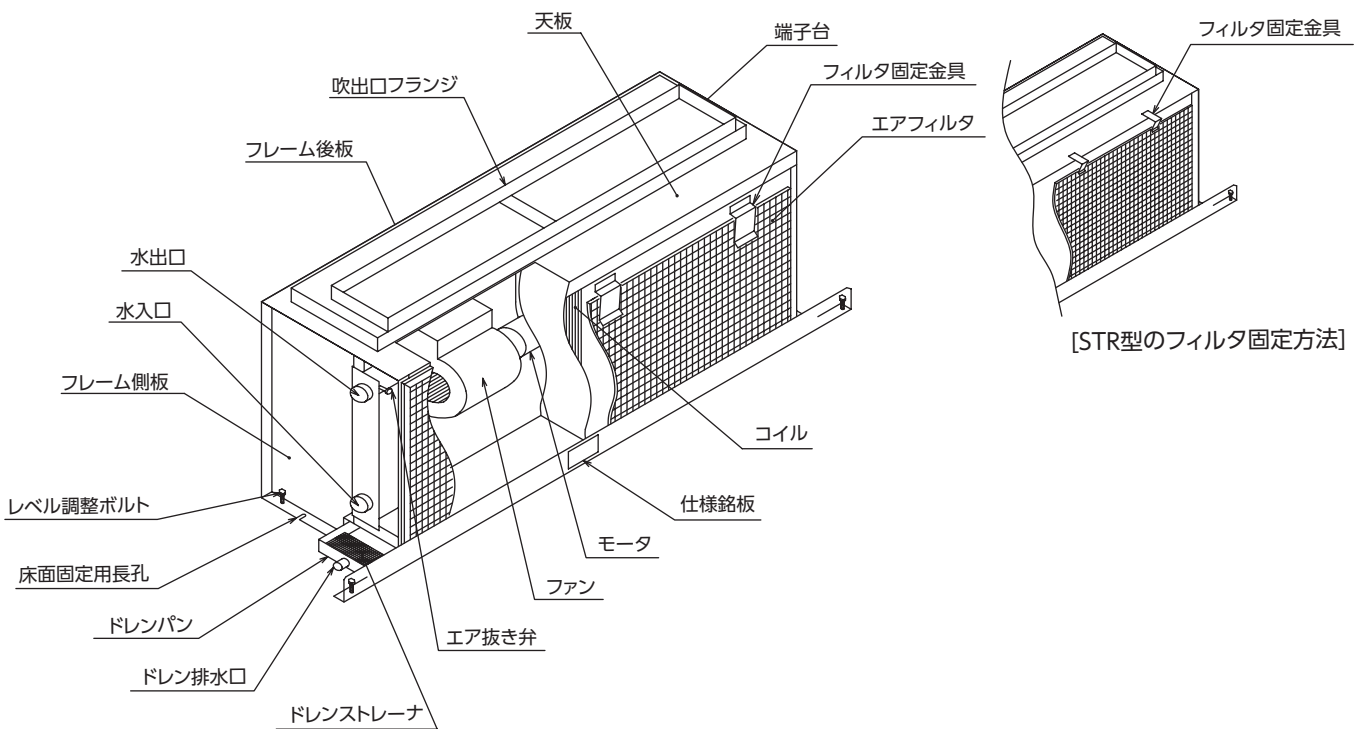


記載内容は標準仕様が対象のため、特殊仕様は製品の細部が若干異なります。

ローボイ露出形 (SL型) / 超ローボイ露出形 (ST型)

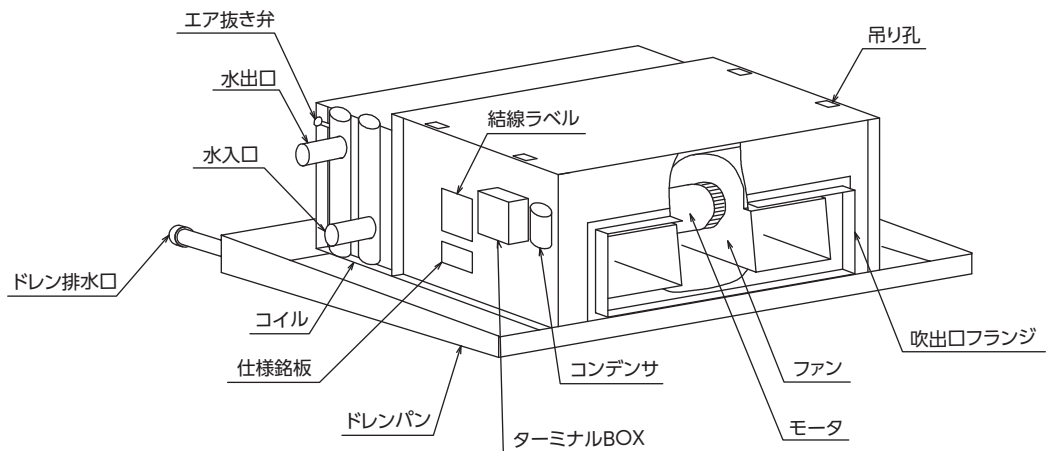


ローボイ隠ぺい形 (SLR型) / 超ローボイ隠ぺい形 (STR型)

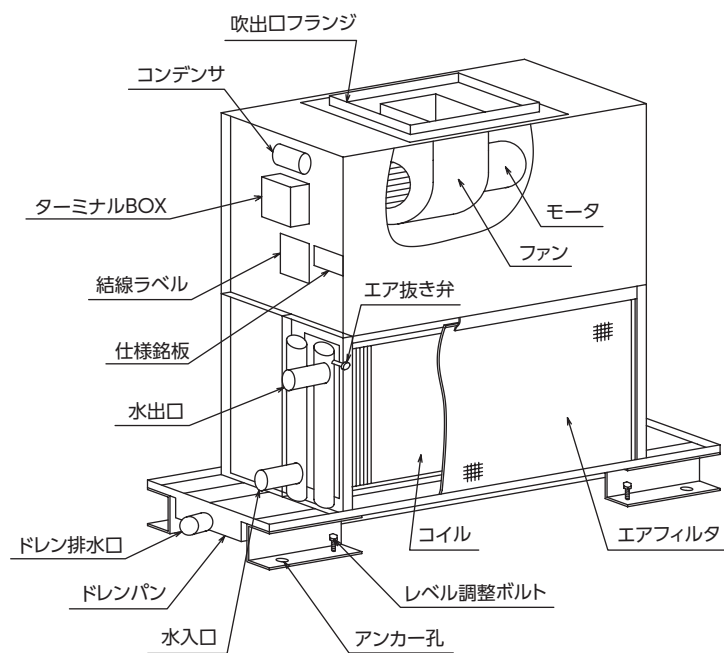


記載内容は標準仕様が対象のため、特殊仕様は製品の細部が若干異なります。

大容量型メガ 天井吊り隠ぺい形 (MH型)



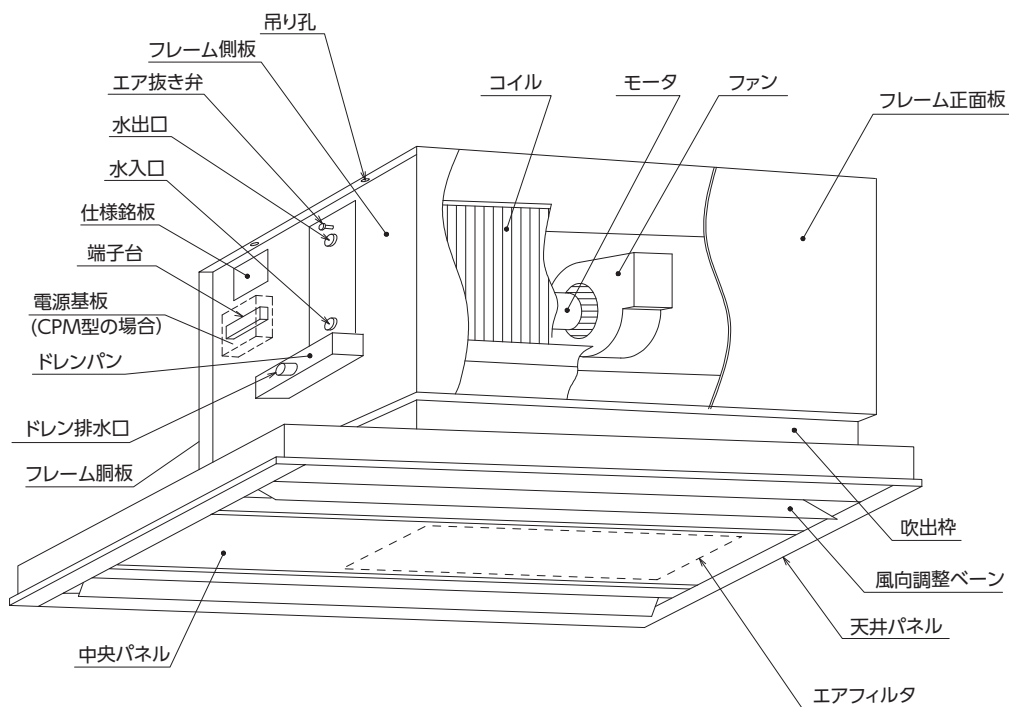
大容量型メガ 床置隠ぺい形 (MV型)



記載内容は標準仕様が対象のため、特殊仕様は製品の細部が若干異なります。

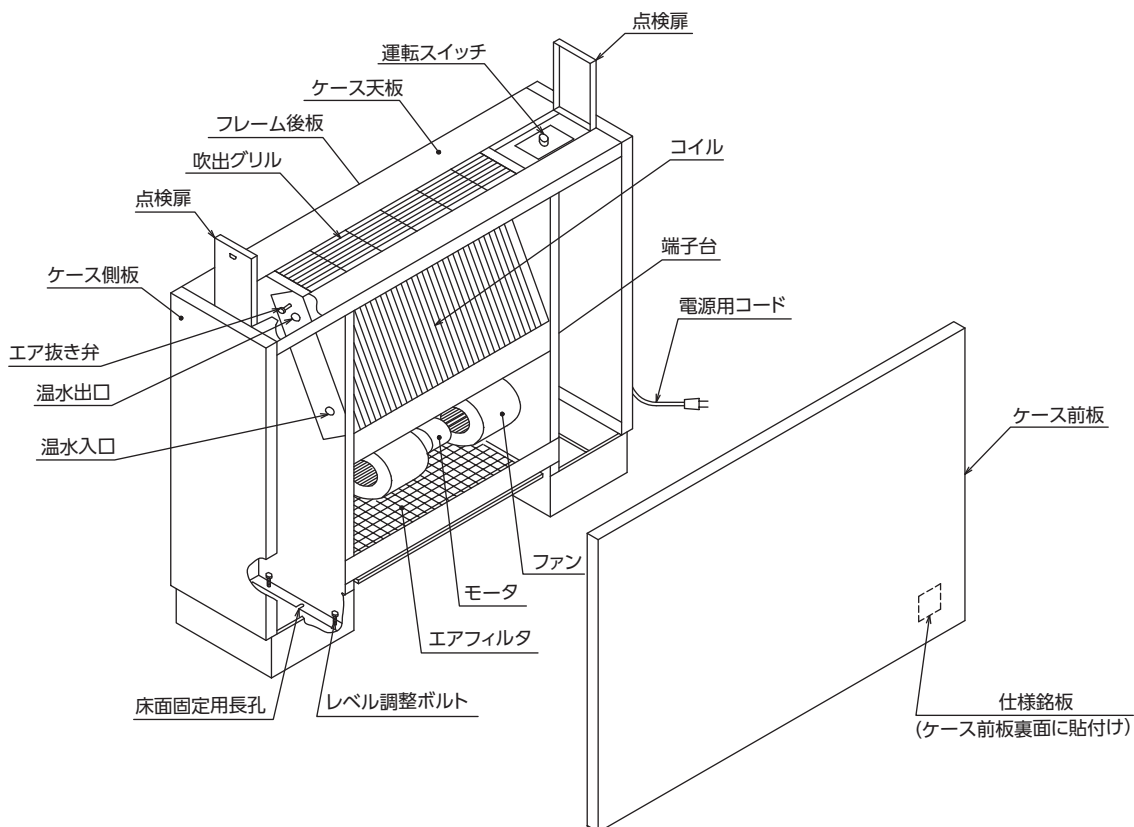
2 CLIPAK (クライパック)

カセット形 (CP・CPM型)



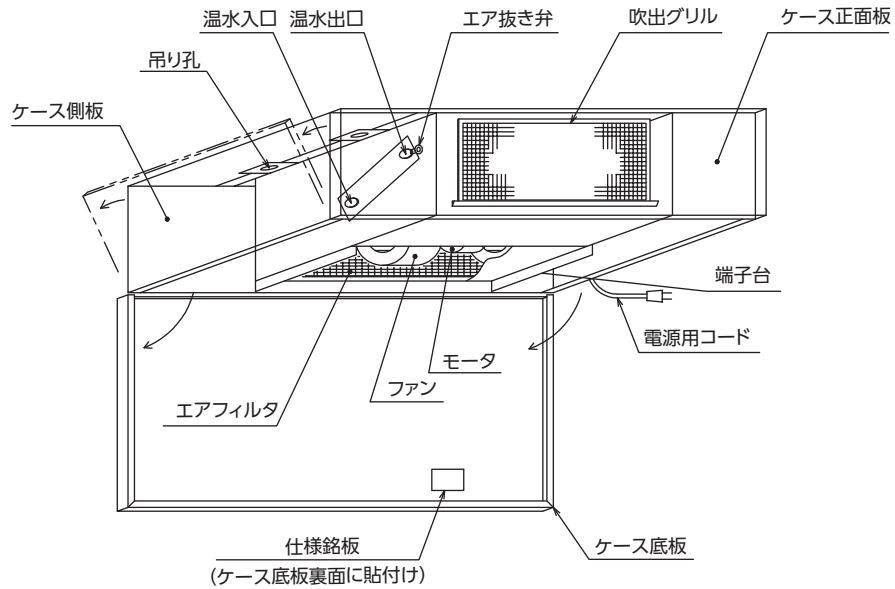
3 FAN CONVECTOR (ファンコンベクタ)

床置露出形 (FW型)

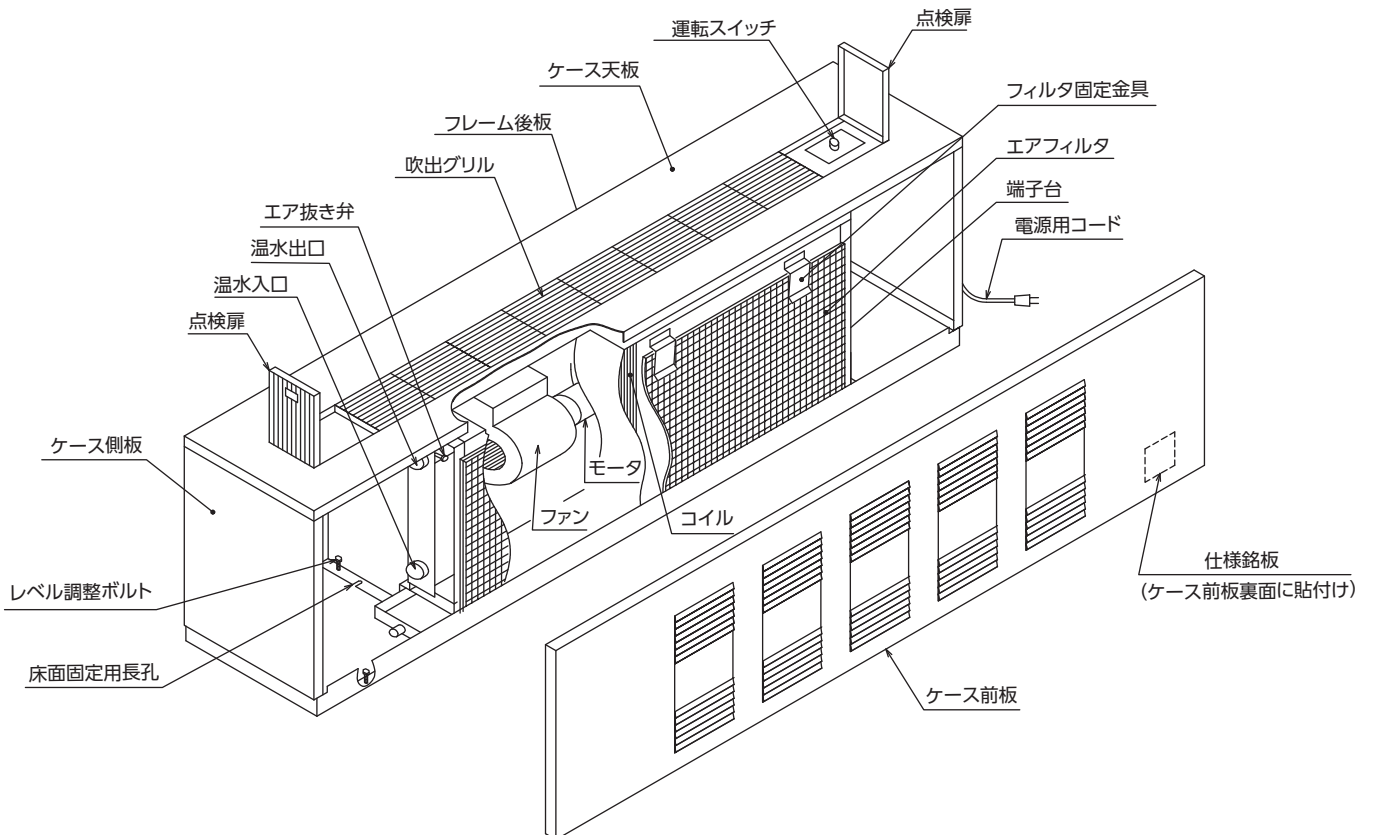


記載内容は標準仕様が対象のため、特殊仕様は製品の細部が若干異なります。

天井吊り露出形 (CW型)



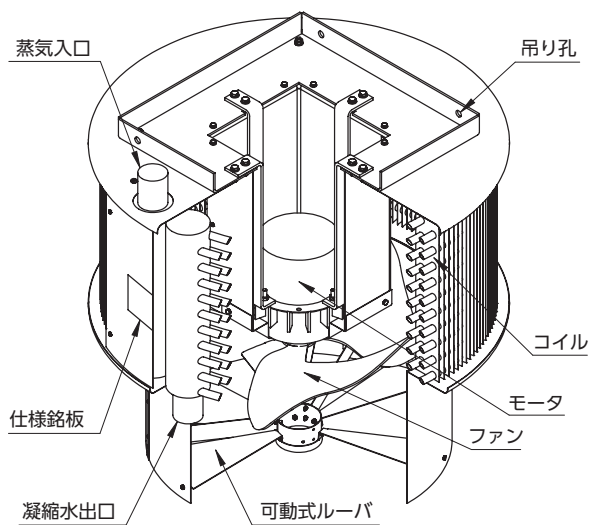
ローボイ露出形 (LW型)



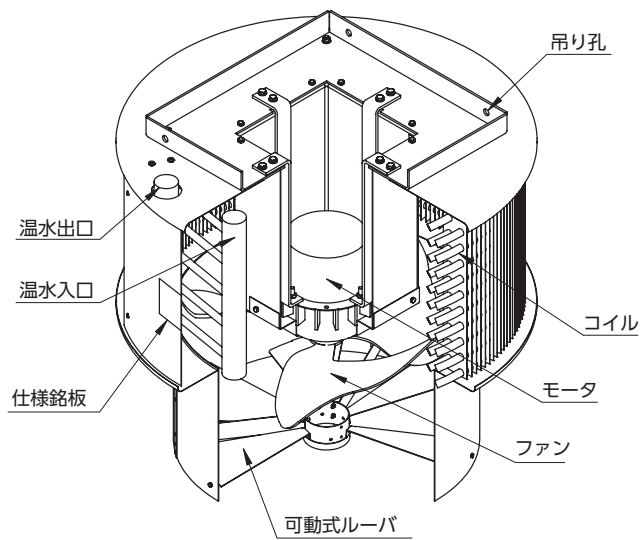
記載内容は標準仕様が対象のため、特殊仕様は製品の細部が若干異なります。

4 UNIT HEATER (ユニットヒータ)

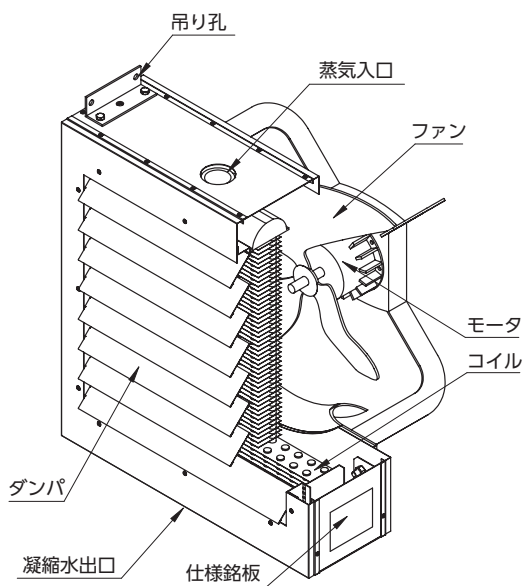
PS型



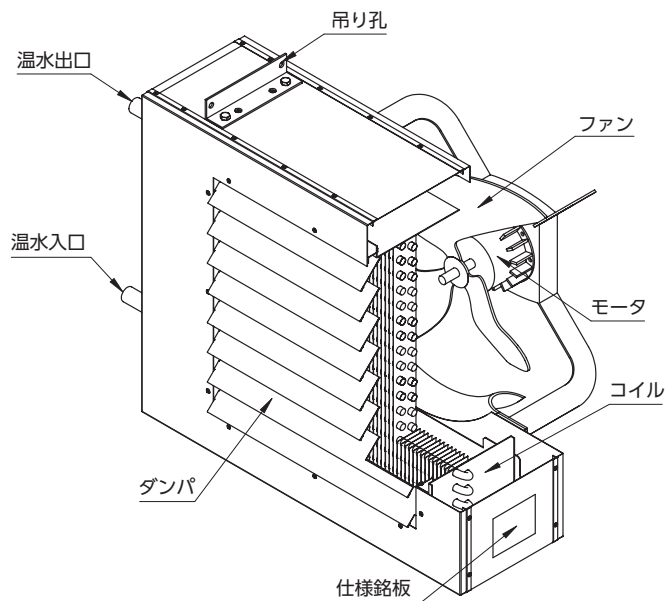
PW型



HS型



HW型



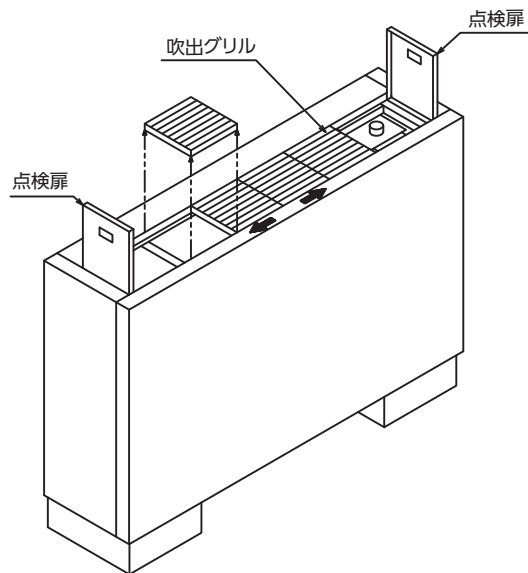
記載内容は標準仕様が対象のため、特殊仕様は製品の細部が若干異なります。

3 | 運 転

1 運 転 方 法

- ① 点検扉・エアフィルタなどが取り付けられていることを確認してください。
エアフィルタが汚れている場合は清掃してください。
※エアフィルタが無いと、ユニット内部に塵埃が堆積するなど故障や火災の原因になります。
なお、SCR-PB型・SCRM-PB型及びMH型にはエアフィルタが付属されていませんので別途吸込グリルなどにお取り付け願います。
- ② 仕切弁を開き、冷温水または蒸気を流してください。
- ③ エア抜き弁によりコイル内のエア抜きを行ってください。(PS・PW・HS・HW型は除く)
この際に、エア抜きホースがドレンパンの内にあることを確認してください。
水漏れなどの原因になります。
また、ファン停止中、コイルに冷温水及び蒸気を流さないでください。
結露・過熱など故障の原因になります。
- ④ 電気配線に誤結線がないか確認してください。
- ⑤ 定格の電源電圧が供給されているか確認してください。
- ⑥ 運転スイッチにより、ファンの運転を行ってください。
- ⑦ 風向を調節してください。

・SF・SFM・SL・ST・FW・LW型は、吹出グリルの取付け向きを変えて風向を調整してください。
吹出グリルは左または右へスライドさせ、端から脱着してください。(図3-1参照)



(本図はSF・SFM型を示します。他型も同様です)

図3-1 SF・SFM型の風向調整

・SC・CW型は付属の可動羽根操作キーで吹出グリルの羽根の向きを変えて風向を調整してください。(図3-2参照)

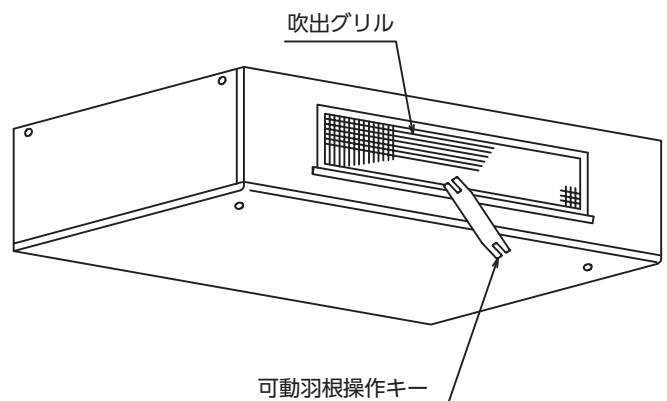


図3-2 SC・CW型の風向調整

- ・CP・CPM型の吹出口は、風向調整ベーンにより水平・垂直に吹出し方向を調整できます。
風向調整ベーンの角度を変える際は、両手で操作してください。(図3-3参照)

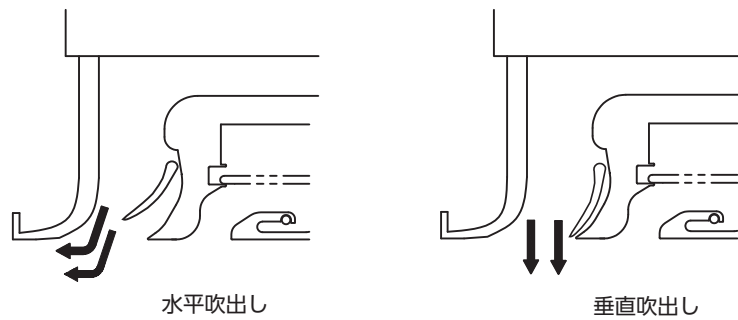


図3-3 CP・CPM型の風向調整

- ・PW・PS型はルーバの開閉角度を調節することで、風の到達距離と拡散を調整できます。
※ルーバの調節は1枚ずつ手動で行います。調節する際は必ず運転を停止してから行ってください。

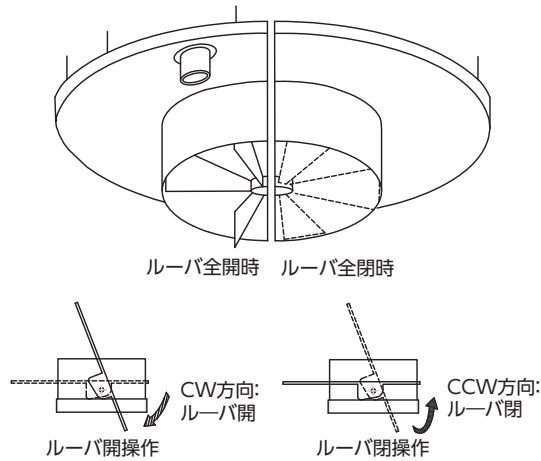


図3-4 PW・PS型の風向調整

- ・HW・HS型はダンパの開閉角度を調節することで、風の到達距離を調整できます。
※ダンパの調節は1枚ずつ手動で行います。調節する際は必ず運転を停止してから行ってください。

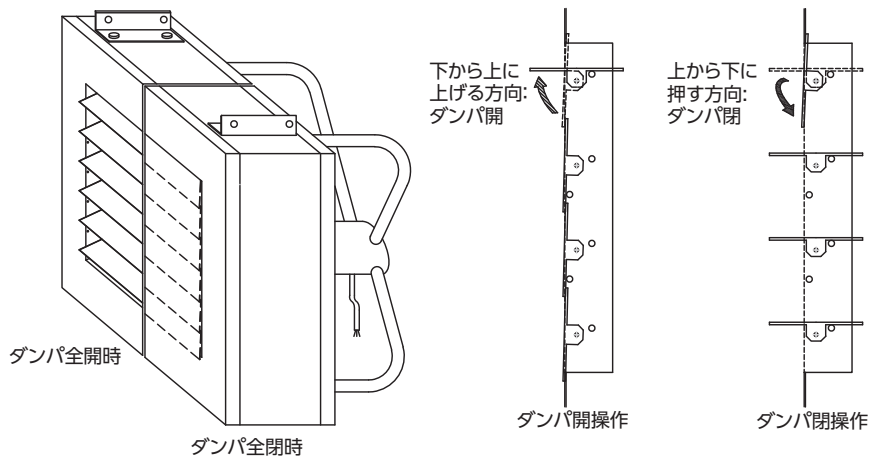


図3-5 HW・HS型の風向調整

2 上手にお使いいただくために

- ・乳幼児・お年寄り・病人がいる場合には、特に注意して室温を適正に調節してください。
一般的な目安は次のとおりです。
冷房時28℃前後（室内外の温度差は5℃前後が適当です）
暖房時20℃前後
- ・吸込口や吹出口を塞ぐような障害物を置かないでください。
→ 冷温風の分布が悪くなる場合があります。
- ・エアフィルタの清掃は定期的に行ってください。
→ エアフィルタが目詰まりすると、風量が少なくなり能力が低下します。

3 凍結の防止

- ・ユニット周囲の温度が0℃以下になると、コイル内の水が凍結して、コイルが破損します。
凍結のおそれのある場合は、必ず凍結防止対策を講じてください。

4 露つきの防止

- ・ファンを停止したまま通水すると、ユニット内部が結露して、結露水が天井や床に滴下するおそれがあります。
ファンを停止する場合には、仕切弁を全閉とし、通水しないでください。
また、開閉の頻繁な扉、開放中の換気窓、蒸気発生源の近くに設置すると、本体の表面が結露するおそれがあります。
- ・JISに定められた結露条件にて結露水が滴下しないことを確認しております。
- ・下記条件より厳しい条件で使用しますと結露水が滴下することがあります。

項目	試験条件
冷水入口温度	5℃
吸込空気条件	DB 27℃ WB 24℃ RH 78%
運 転	低速運転で4時間連続運転

5 運転音

- ・設置環境によって反響などがあるため、設置場所及び室内の騒音値はカタログ表示値よりも大きくなる場合があります。

4 | 保守点検

機器を長く安全にお使いいただくためには、機器の定期的なメンテナンスが重要です。

各構成部品につきまして以下に示す保守点検を継続的に行ってください。安全のために保守点検をする前に電源を必ずお切りください。

1 共通

A ケーシングの清掃

- ・汚れは乾いた柔らかい布や湿らせたまたはしっかり絞った柔らかい布で軽く拭き取ってください。汚れがひどい場合には、ぬるま湯で薄めた中性洗剤を含ませた布で汚れを落とし、乾いた布でよく拭き取ってください。
- ・ガソリン・灯油・IPA（イソプロピルアルコール）・中性洗剤以外の洗浄剤（クレンザーなど）を使用すると、塗装のはがれ・キズの原因になります。（図4-1参照）
本体へ水を直接掛けることは絶対にしないでください。

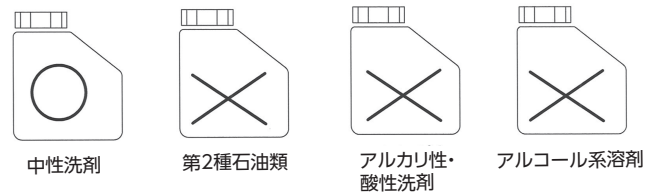


図4-1 洗浄剤の例

B ファン

- ・ファンランナに塵埃が堆積すると、風量の低下、アンバランスによる振動の発生や軸受損傷の原因になります。（図4-2参照）
- ・ファンランナはバランス調整やクリアランス管理が必要なため、清掃や整備を行う場合は、弊社指定のサービス会社に依頼してください。

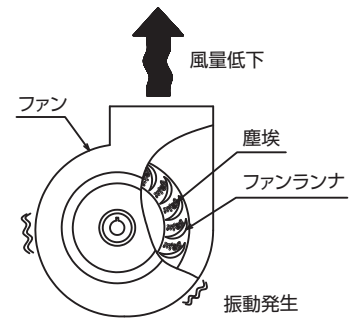


図4-2 塵埃による現象

C コイル

- ・フィンの汚れや目詰まりは、冷暖房能力の低下や風量の減少につながりますので定期的に清掃してください。
- ・コイル内面の腐食防止のため、供給する冷温水の水質は日本冷凍空調工業会(JRA)の「冷凍空調用機器用水質ガイドライン(JRA-GL-02)」に準拠してください。
- ・ファンコイルユニット及びコイルの新設や更新を行う場合、新しいコイル内面は酸化被膜が形成されておらず早期に腐食が生じる場合がありますので、水質検査を行い、腐食性の有無を確認し、必要に応じて水質改善を実施してください。
- ・ファンコイルユニットに使用する冷温水の水質によっては、コイル銅管が腐食することがあり、特に開放式蓄熱槽を使用する冷温水循環システムでは腐食が発生しやすい傾向にありますので、定期的な水質管理を行ってください。
- ・コイル配管部に手や足を掛けたり、配管接続の際に無理な外力を加えないでください。配管が曲がってヒビが入り、漏水する場合があります。
- ・配管をねじ込む際は、配管に大きな力が加わらないように真っ直ぐにゆっくりとねじ込んでください。（図4-3参照）
- ・ソケット部に配管をねじ込む際は、配管締め付けトルクを30N・m以下としてください。
- ・仕切弁類にパイプレンチを掛けることは、絶対に行わないでください。仕切弁本体を变形・損傷させ、漏れの原因になります。エア抜き・ドレン抜き終了後、必ず仕切弁を閉じて運転を行ってください。

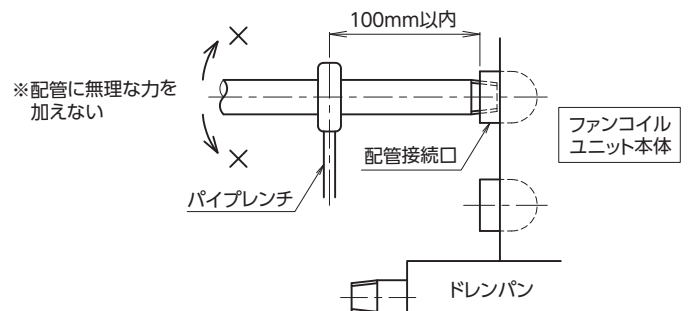


図4-3 冷温水配管施工時の注意事項

D ドレンパン

- ・排水口のゴミを定期的に取り除いてください。特に冷房運転前は内面を掃除してください。
ドレンパンに溜まった水に雑菌が発生する原因になります。清掃を素手で行うとケガのおそれがあるため、厚手の長手袋を着用してください。

E エアフィルタ

- ・清掃は1ヶ月に1度程度を目安に、掃除機で塵埃を取り除いてください。
- ・エアフィルタの洗浄時期は設置環境及び運転条件により大きく異なります。
- ・水洗い後は強く絞らず自然乾燥させてください。但し、直射日光にさらすと変形・変色するおそれがあります。
- ・ろ材は洗浄により再使用できますが、繰り返し洗浄することにより、塵埃の捕集効率が低下します。
- ・機器の設置環境・運転条件によって変化しますが、約2年で新しいろ材に交換されることを推奨します。
- ・エアフィルタの組み込みを忘れていたり、使い古したろ材を使用したりすると、コイルのフィンやファンランナに塵埃が付着して、冷暖房能力や風量の低下の原因になります。

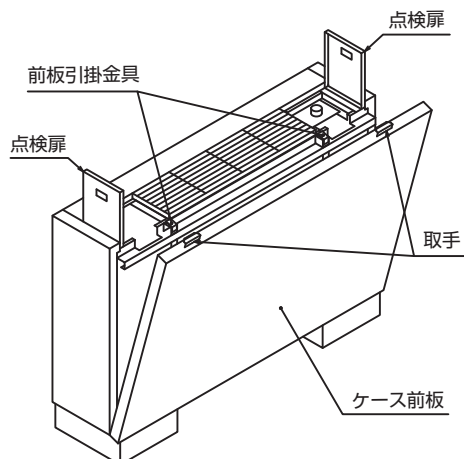
F 電気部品・配線

- ・電気部品の点検は必ず電源を遮断して実施してください。
- ・運転を再開する前に、未結線・誤結線がないか、電源が供給されているかを確認してください。
- ・モータ・スイッチ・端子台に付着・堆積したホコリは掃除機で除去ください。
(電気部品にホコリが付着・堆積したまま運転すると火災の原因になります)
- ・モータの保守は専門業者に依頼してください。(保守に不備がある場合、モータが焼損(発煙・発火)する可能性があります)
- ・ユニットの増設や電気配線変更の際は、納入仕様書の電気結線図を必ずご確認ください。
- ・1つの運転スイッチで複数のユニットを連動運転する場合は、リレーユニットを必要とする場合があります。(機種により、ユニットに親機・子機の区別があるのでご注意ください) また、異機種異サイズで連動運転する場合は、リレーユニットが必要となります。
既存ユニットと連動運転する場合は、双方のモータが同一仕様であることを必ずご確認ください。
- ・電気部品は経年劣化します。メンテナンス時間表を参考に、定期的な保守点検及び部品交換を行ってください。
- ・モータやコンデンサを交換する場合は、弊社指定のサービス会社に依頼してください。
- ・配線変更などで不明な点につきましては弊社にご相談ください。
- ・SFM・SFRM・SCRM・CPMには高調波電流発生機器が組み込まれています。漏電遮断器は高調波対応品をご使用してください。
- ・長期間使用しない場合は、3ヶ月毎に運転もしくはファン軸を手回して、異常がないことを確認してください。

2 床置露出・床置隠ぺい形 (SF・SFM・SFR・SFRM・FW型)

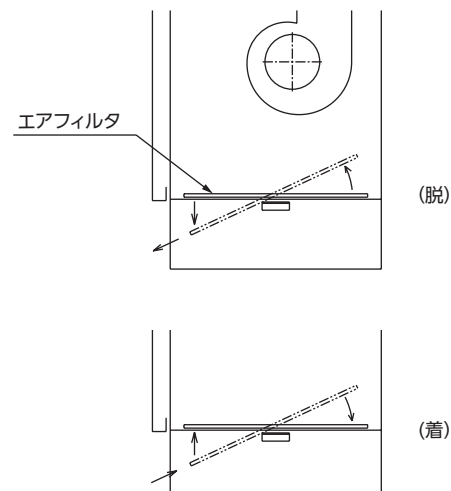
前面パネルの取り外し (SF・SFM・FW型)

点検扉を開け、取手を持ってケース前板を少し持ち上げてから手前に引くと、ケース前板が前板引掛金具から外れ、ケース前板を取り外すことができます。



エアフィルタの脱着方法 (共通)

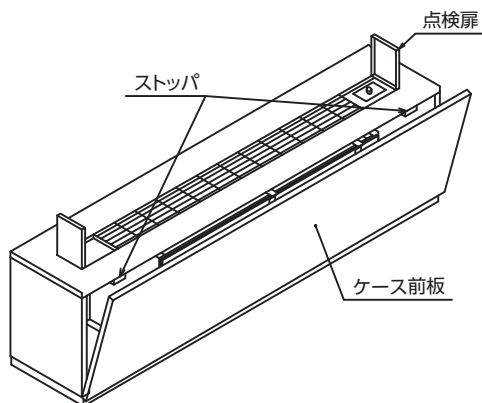
SL・ST・LW型はケース前板を開けてください。エアフィルタを持ち上げ取り外してください。(メンテナンス後、逆の操作で取り付けてください)



3 ローボイ露出・超ローボイ露出形(SL・ST・LW型)/ローボイ隠ぺい・超ローボイ隠ぺい形(SLR・STR型)

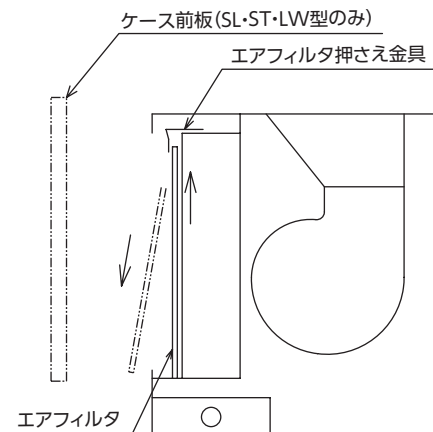
前面パネルの取り外し (SL・ST・LW型)

点検扉を開け、天板に装着したストッパを持ち上げるとケース前板は傾きますので、上へ少し持ち上げて取り外せます。800型は中央にもストッパがありますので吹出口を横にずらして操作してください。



エアフィルタの脱着方法 (共通)

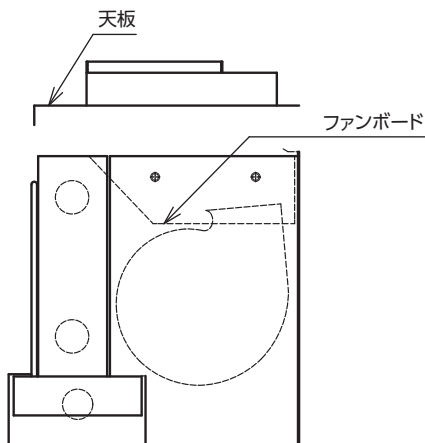
SL・ST・LW型はケース前板を開けてください。エアフィルタを持ち上げ取り外してください。(メンテナンス後、逆の操作で取り付けてください)



4 ローボイ隠ぺい・超ローボイ隠ぺい形(SLR・STR型)

ファンモータの点検

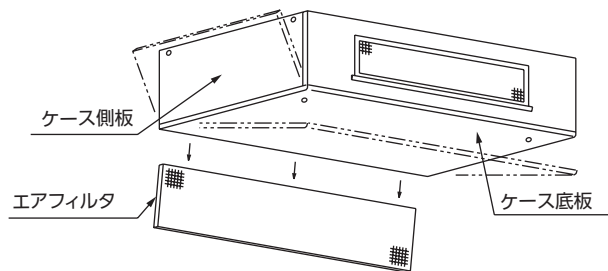
ファンモータの点検は天板を外してユニットの上部から行う必要があります。点検は機内断熱材を扱う作業が発生しますので弊社指定のサービス会社にご相談ください。



5 天井吊り露出形 (SC・CW型)

パネルの取り外し

ケース底板・側板はいずれもビスを取り外すことにより開閉できます。エアフィルタはユニット背面より取り外すことができます。

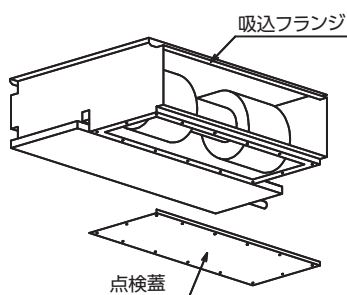


6 天井吊り隠ぺい形 (SCR・SCRM型)

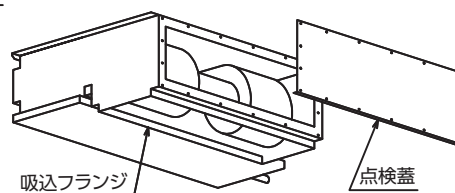
点検蓋の取り外し

点検蓋を開けると、ファン・モータの点検が可能です。

PB型



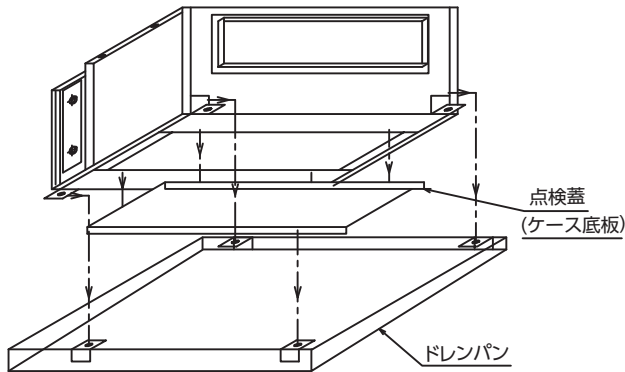
PD型



7 天井吊り隠ぺい形 (MH 型)

点検蓋の取り外し

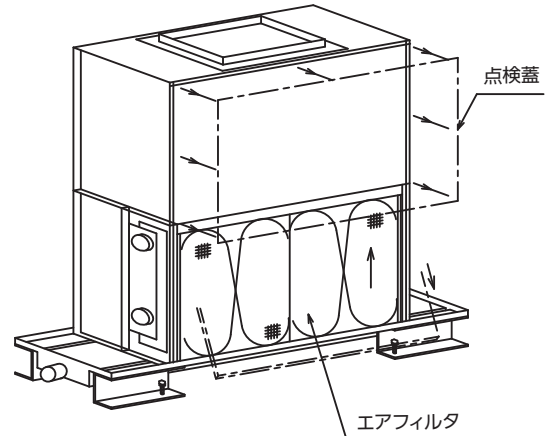
ドレンパンを取り外し、内部にある点検蓋を開けると、ファン・コイル部分の点検が可能です。



8 床置隠ぺい形 (MV 型)

点検蓋の取り外し

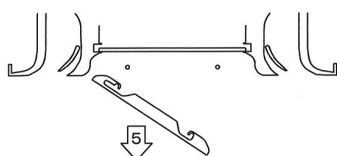
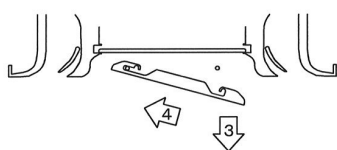
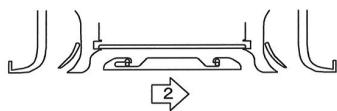
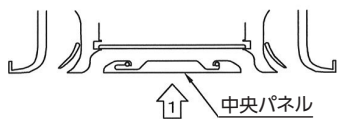
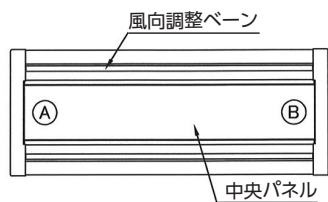
前面の点検蓋を開けると、ファン・モータの点検が可能です。エアフィルタの取り外しはエアフィルタを少し持ち上げ、手前に引き出してください。



9 カセット形 (CP・CPM 型)

中央パネルの取り外し

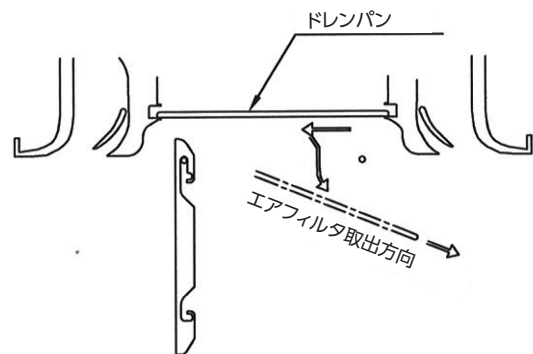
1. 中央パネルのA・B両側を上へ少し押し上げてください。…矢印1
2. 中央パネルを持ち上げたまま横へずらししてください。…矢印2 (中央パネルは一方にしかずれません)
3. 片側を下に降ろしてください。…矢印3
4. 片側のピンから外れたら、矢印4の方向へ中央パネルを押し上げててください。
5. 全体を、矢印5の方向へ降ろしてください。
これで中央パネルは取り外せます。



エアフィルタの脱着方法

中央パネルを開けてください。

エアフィルタを開けた中央パネル側へ横へずらし、下へ引き抜いてください。



注意

天井パネル、中央パネルは樹脂製です。無理な力を加えると破損のおそれがありますので、取り扱いには十分注意してください。天井パネル取り付けの際は、天井パネルと天井ボードとのすき間が生じないように、パネル吊りボルトを4本とも締め付けてください。すき間があるとパネル吊りボルトの緩みの原因になります。(詳細は工事説明書の「据付工事」を参照ください)

5 | 異常時の確認

故障かな?と思ったら、取扱説明書をもう一度お読みいただき、次の点をお調べください。

ご確認の上、不都合が解消しない場合は運転を停止し、お買上げの代理店もしくは弊社サービス会社へご連絡願います。

現象	チェックポイント
モーターが回らない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 結線に誤りはありませんか。 ・ 漏電遮断器は高調波対応型を使用していますか。 ・ 運転スイッチがOFFになっていませんか。 ・ 電気は通電されていますか。(停電)
風が出ない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 結線に誤りはありませんか。 ・ 運転スイッチがOFFになっていませんか。 ・ 電気は通電されていますか。(停電) ・ エアフィルタは目詰まりしていませんか。 ・ コイルのフィンが目詰まりしていませんか。 ・ ファンランナにホコリなど、異物が詰まっていますか。 ・ ダンパまたはルーバが閉じていませんか。
冷房・暖房がきかない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 風が出ていますか。 ・ エアフィルタは目詰まりしていませんか。 ・ コイルのフィンが目詰まりしていませんか。 ・ コイルのエア抜きを行いましたか。 ・ 冷温水・蒸気が流れていますか。(配管途中の制御弁・仕切弁) ・ 室内の窓やドアが開放になっているなど、異常に負荷が増えていませんか。
異常音がする	<ul style="list-style-type: none"> ・ エアフィルタは目詰まりしていませんか。 ・ ファンランナにホコリなど、異物が詰まっていますか。 ・ 天井パネルの取り付けが緩んでいませんか。 ・ コイルのエア抜きを行いましたか。 ・ 吊り金具は正しく施工されていますか。 ・ ダンパまたはルーバが動いていませんか
水滴が落ちる	<ul style="list-style-type: none"> ・ エアフィルタは目詰まりしていませんか。 ・ ドレン管の詰まり、継ぎ手の緩みなどはありませんか。 ・ 排水口は詰まっていますか。 ・ ドレン管の勾配不足はありませんか。 ・ コイルのエア抜き弁は緩んでいませんか。 ・ エア抜きホースがドレンパンの外に出ていませんか。 ・ ユニット配管接続部の断熱が不完全ではないですか。 ・ ユニット本体の据付け状態は水平ですか。 (逆勾配になりドレンパンに大量の水が滞留していませんか) ・ ユニットに冷水を通水した状態で、ファンを停止していませんか。

6 | 標準メンテナンスサイクル

- ・本表は標準的なファンコイルユニットの一般的な使用におけるメンテナンスサイクル(1日10時間運転、年間3000時間稼働)を示します。構成部品が異なる場合や設置環境・運転条件が特殊な場合は別途お問い合わせ願います。
- ・表記している年数はメンテナンスや更新の目安を示すもので、製品の保証をするものではありません。
- ・構成部品の点検方法や交換などの詳細は本取扱説明書のほか、構成部品製造メーカーの取扱説明書を併せてご確認ください。

標準メンテナンス時間表 【1日10時間運転、年間3000時間稼働】		▲ 点検・調整	○ 部品交換	■ 洗浄												
		● 交換	□ 清掃													
		【▲点検・調整】には清掃や補修塗装などを含まず														
品名	年数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
ファン		▲	□	▲	□	▲	□	▲	□	▲	□	▲	□	▲	□	●
モータ		▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	●	▲	▲	▲	▲	▲	▲	●
コンデンサ		▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	●	▲	▲	▲	▲	▲	▲	●
運転スイッチ		▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	●
コイル		▲	▲	□	▲	▲	□	▲	▲	□	▲	▲	□	▲	▲	●
ドレンパン		▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
エアフィルタ		■	■	○	■	■	○	■	■	○	■	■	○	■	■	○
内貼材など			▲		▲		▲		▲		▲		▲		▲	
ケーシング						▲					▲					●
電機部品		▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	●
電源基板 (SFM,SFRM,SCRM,CPM)		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□

7 | 製品の保証

弊社の製品は別途発行します製品保証書に基づいて保証いたします。
 製品保証書は無償修理の際に必要ですので、必ずお受取りになり大切に保管してください。

— 保証の内容 —

1. 保証期間 竣工後または運転開始後 1年
2. 適正なご使用において設計・製造・材料に起因する故障に限り、無償修理いたします。
3. 次の場合は、保証期間中でも有償となります。
 - (1) 使用方法、施工方法の誤り及び保管方法の不備による故障
 - (2) 改造や不適切な修理による故障
 - (3) 納品後の移動や搬送による故障
 - (4) 地震などの自然災害、凍結、火災、浸水及び、その二次災害や異常電圧などによる故障
4. 本製品の故障に起因する二次的災害(生産ラインなどへの影響)については、保証範囲外とさせていただきます。
5. 上記の無償修理は、当社または当社のサービス店が対応いたしますので、必ず保証書をご提示ください。
 ご提示がない場合は保証期間内であっても有償となります。

保守・点検・修理のご用命は

新晃アトモス株式会社

東京本部：東京都江東区新大橋1丁目11番4号 〒135-0007 TEL(03)5638-3800
神奈川支社：
(秦野営業所) 神奈川県秦野市西大竹124番5号 〒257-0012 TEL(0463)84-5811
東北支社：仙台市青葉区米ヶ袋1丁目3番43号 〒980-0813 TEL(022)216-2770
札幌営業所：札幌市北区北10条西3丁目9番2号 〒001-0010 TEL(011)757-5383
世田谷営業所：東京都世田谷区新町2丁目27番4号 〒154-0014 TEL(03)5450-6401
名古屋営業所：名古屋市中区錦3丁目11番33号 〒460-0003 TEL(052)209-9941

大阪支社：大阪府寝屋川市宇谷町11番13号 〒572-0856 TEL(072)811-3160
九州支社：
(沖縄営業所) 沖縄県那覇市山下町5番21号 〒900-0027 TEL(098)840-1130
大宮営業所：さいたま市大宮区仲町2丁目75番地 〒330-0845 TEL(048)658-5121
千葉営業所：千葉市中央区新町1番地17号 〒260-0028 TEL(043)204-2115
横浜営業所：神奈川県横浜市西区高島2丁目12番6号 〒220-0011 TEL(045)548-3901
福岡営業所：福岡市博多区冷泉町5番35号 〒812-0039 TEL(092)291-4332

www.sinkoatmos.co.jp

新晃工業株式会社

本社：大阪市北区南森町1丁目4番5号 〒530-0054 TEL(06)6367-1811
東京本社：東京都中央区日本橋浜町2丁目57番7号 〒103-0007 TEL(03)5640-4159
神奈川工場：神奈川県秦野市菩提160番地の1 〒259-1302 TEL(0463)75-2111
岡山工場：岡山県津山市草加部1458番地の4 〒708-1117 TEL(0868)29-3141
東京支社：東京都中央区日本橋浜町2丁目57番7号 〒103-0007 TEL(03)5640-4155
大阪支社：大阪市北区南森町1丁目4番5号 〒530-0054 TEL(06)6367-1801

名古屋支社：名古屋市中村区名駅南1丁目24番30号 〒450-0003 TEL(052)581-8661
札幌営業所：札幌市北区北10条西3丁目9番2号 〒001-0010 TEL(011)708-3177
東北営業所：仙台市青葉区中央1丁目6番35号 〒980-0021 TEL(022)262-7445
九州営業所：福岡市博多区冷泉町5番35号 〒812-0039 TEL(092)291-8545
SINKOテクニカルセンター：神奈川県秦野市菩提160番地の1 〒259-1302 TEL(0463)75-1977
SINKO AIR DESIGN STUDIO：大阪府寝屋川市宇谷町11番13号 〒572-0856

www.sinko.co.jp



禁複製 2024
FCS-24-A 10001